

## ところ会の有志による「鎌倉街道上道を歩く 第8回 (1日目)」

2015-10-22 記 居田 治

### J R 東海道線藤沢駅～鎌倉 (約 11 k m)

- 日程：2015年10月22日(木)
- 天気：快晴、気温は歩くには少し高め
- 参加者：17名(女性10名、男性7名)
- 行程：藤沢駅⇒①慈眼寺⇒②二伝寺(割愛)⇒③日枝神社前(庚申塔・双体道祖神等)⇒④村岡城址⇒⑤洲崎古戦場跡【泣き塔・洲崎古戦場跡碑】⇒⑥昼食⇒⑦御霊神社(梶原)⇒⑧葛原岡神社と日野俊基の墓⇒⑨源氏山公園【源頼朝の銅像】⇒⑩化粧坂⇒⑪景清の土牢⇒⑫扇ガ谷⇒⑬浄光明寺⇒⑭寿福寺⇒⑮鶴岡八幡宮……打ち上げ会

「鎌倉街道歩きも今回の第8回で最後となり、一泊二日間をかけて一日目は鎌倉の鶴岡八幡宮まで歩き、二日目は新田義貞に関する旧跡と大仏切通を歩く予定です。まずは本日の出発地であるJ R藤沢駅に向かいます。所沢駅から約2時間の小旅行気分で、西武線で池袋駅へ、池袋から湘南新宿ラインで藤沢へと出発しましたが、電車の遅延で現地藤沢駅へは20分程度遅れで到着し、11:00頃の出発となりました。駅出発直後から長い坂道が続く行程で、前途多難が予想されます。」

「天気は好天、気温は汗をかく程度の陽気の中での気持ちのいい一日が予想される中での出発でした。」

「第8回の街道を歩くは二日間にわたるので2回に分けて報告いたします。」

・・・藤沢駅を11時00分に出発・・・

### <藤沢駅から歩きはじめる>



JR 藤沢駅前を歩く



境川沿いに



慈眼寺に向かって坂道を登り始める



慈眼寺に

### 慈眼寺



山門を臨む



慈眼寺境内



慈眼寺寄り木



山門の龍



日枝神社に

曹洞宗の寺で無量山慈眼寺という。天文2年(1533年)に玉縄城主北条綱成が創建したといわれています。本尊の秘仏十一面観音像と本堂にかかる梵鐘は市指定文化財。山門の前の参道には地藏が並び、山門には龍が巻きついた装飾があります。

<慈眼寺から日枝神社へ>



藤沢自由教会



日枝神社前：  
庚申塔や双体  
道祖神等があり  
ます。近隣から  
集められたもの  
でしょう。



村岡城址に

村岡城址



村岡城址

村岡五郎を名乗った  
関東八平氏の始祖平良  
文の居城であったとさ  
れます。現在は公園に  
なっています。ここ  
で一休みする。



泣き塔  
・洲崎古  
戦場跡  
に

武田薬品湘南工場



泣き塔



旧 JR 車両工場の跡地の一角に樹木の  
茂った所に泣き塔があり、夜毎に人のす  
すり泣くような声が聞こえたところから  
名付けられたと伝えられている。ここ  
には宝篋印塔と数基の五輪塔が残されて  
おり、戦いの約 20 年後州崎合戦の死者  
弔うために建てられたものと伝えられ  
ている、この場所は実は小さな岩山で、  
大船工場設立時にこの岩を壊そうとし  
るたびに死傷者が出たと言われている。

東海道線横断地下道



金網越しに泣き塔を見る

須崎古戦場跡

元弘 3 年（1333）新田義貞軍を迎え撃つため幕府軍の赤橋守時は 6 万（太平記の記述、実数は 10 分の 1 以下？）の兵を率いて巨福呂坂（こぶくろざか）を越えて洲崎（現地名は寺分）に布陣した。合戦は 18 日に始まり新田軍の将堀口貞満と戦い残った 90 余人の兵とともに守時は自刃しました。



洲崎古戦場跡碑  
此ノ辺リ古ノ洲崎郷ニ属ス 元弘三年五月  
新田義貞鎌倉攻ノ折 ソノ武将堀口三郎貞満  
大島讃岐守 守之洲崎口ヨリ攻ム 鎌倉方ハ  
赤崎相模守 守時ヲ将トシテ邀撃シ 戦闘六  
十数度 遂ニ敗レ守時以下九十余人自刃シタル古戦場ナリ  
昭和三十一年三月建 鎌倉友青会



13:30  
頃、1 日  
目の昼  
食所、天  
狗に落  
ち着き  
ました。





14:30 頃昼食処天狗を出発し、本日の難所化粧坂に向かう。



昼食後歩き開始



御霊神社 (梶原)に

### 御霊神社 (梶原)



山門より境内を臨む

後三年の役で活躍した鎌倉権五郎景政をまつる神社です。もとは関東平氏五家の始祖、鎌倉・梶原・村岡・長尾・大庭の5氏の霊を祀った神社であったとされ、五霊から転じて御霊神社と通称されるようになり、後に、鎌倉権五郎景政の一柱のみに祭神は集約された。



御霊神社の獅子



葛原岡神社と日野俊基の墓へ

### 葛原岡神社と日野俊基の墓

日野俊基は後醍醐天皇の命を受け、鎌倉幕府を打倒するために立ちあがったが、しかし企てが失敗し(正中の変)一度は赦されたが、再び討幕を企て、元弘2年(1332)にこの地で斬首される。翌年には新田義貞の大軍がこの岡を越えて鎌倉に攻め込み、鎌倉幕府は終焉を迎えるが、歴史上、重要な人物であることから、墓は1927年(昭和2)に国の史跡に指定された。葛原岡神社は日野俊基を祭神として祀った神社です。



葛原岡神社



日野俊基の碑と墓

### 源氏山公園：源頼朝の銅像

後三年の役(1083~1087)に源頼朝の先祖である源頼義、義家が出陣の時、山上に白幡を立てて氏神の岩清水八幡宮に戦勝を祈願し、源頼朝も平家追討の時、山頂で、源氏の戦勝を祈願したと言われる。山頂にある頼朝の銅像は治承4年(1180)の頼朝鎌倉入り800年を記念して昭和55年(1980)に建てられた。



源頼朝の銅像の前で

### 化粧坂

鎌倉七口のひとつで、上道から鎌倉への入り口。鎌倉防衛の要衝の一つで、新田義貞は鎌倉攻めでここを突破できず、稲村ヶ崎から鎌倉中に攻め入った。化粧坂の名前の由来は、平家の大将の首を化粧し首実験したから、あるいはこの辺に遊女がいたからという説等がある。「化粧」を「ケショウ」と読むと現在と同じに「白粉でお化粧」の意味ですが、古くは「ケワイ」とも読み、その場合は「身だしなみを整える」と言う意味に使われる。その意味からは「都市」=「ハレの場」に入る境で「身だしなみを整える」と言う意味で「ケワイ(化粧)坂」、つまりは「鎌倉中」への境界である坂との意味と考えるのが自然であると言う説もあります。



ぬれ落葉  
踏みしめ下る  
化粧坂  
てんこ





## 景清の土牢

景清は平家に仕えて戦い、都落ちに従ったため俗に平姓で平景清とも呼ばれているが、藤原秀郷の子孫で藤原景清。

平家滅亡後も頼朝の暗殺を企てこの土牢に閉じ込められたとされています。「水鑑景清大居士」と彫られた墓石、「向陽庵大悲堂碑記」の石碑が建っている。



## 扇ガ谷：扇谷上杉管領屋敷跡の碑

化粧坂を降りたあたりが扇ガ谷で、もともとこの地は亀ヶ谷と呼ばれ、亀ヶ谷坂を経て北鎌倉方面とつながる地域、地名の由来は鎌倉十井の一つ「扇の井」にちなんだものですが、この地に住んだ管領上杉定正が『扇谷殿』と称されてから扇ガ谷と呼ばれるようになる。



## 浄光明寺

第5代執権北条時頼、第6代執権北条長時が開基となって創建したと伝えられ、北条氏や足利氏とゆかりの深い寺院で、足利尊氏は後醍醐天皇に対し挙兵する直前、当寺に籠っていたと伝える。境内は、谷戸を雛壇状に造成した中世寺院の景観が良く保存されている。



## 寿福寺

建久10年(1199)に亡くなった源頼朝の菩提を弔うため、北条政子が正治2年(1200)に建てたもので、鎌倉五山の第3番目です。この地は源氏の父祖伝来の土地で、頼朝の父義朝の館があったといわれ、また墓地の奥の方にある“やぐら(横穴墳墓)”は源実朝と北条政子の墓と伝えられる。

## 藤谷黄門遺蹟



碑の黄門とは中納言の唐名で藤ヶ谷に居を定めた冷泉為相(ためすけ)中納言を指します。歌人の藤原定家の孫で歌道の名門冷泉家の始祖で、為相の母は京から鎌倉への紀行文「十六夜(いざよい)日記」の作者。裏山には為相の墓がある。

## 鶴岡八幡宮

鶴岡八幡宮は源頼義が前九年の駅で奥州の安倍氏を平定した後、康平6年(1063)、石清水八幡宮を由比郷鶴岡に勧請した。その後、治承4年(1180)、平家打倒の兵を挙げて鎌倉入りした源頼朝がこの地に移し、更に建久2年(1191)には、武士の守護神の総社にふさわしく上宮と下宮を現在の姿に整えた。

源頼朝が鎌倉幕府を開いた後は、源義家が勧請した経緯もあり、武家の崇敬を集める。鎌倉幕府衰退後は、25の僧坊の数も減少し、一時衰退し、戦国時代には里見氏により焼き討ちにあうも、北条氏綱が再建を果たしました。

江戸時代に入ると江戸幕府の庇護を受け大規模化が進み、仁王門、護摩堂、輪蔵、神楽殿、愛染堂、六角堂、観音堂、法華堂、弁天堂等を建築し、徳川家光の治世に薬師堂、鐘楼、楼門なども建てられました。



平成22年3月に大風のために倒れてしまった樹齢千年の大銀杏は今どのような状態になっているのでしょうか。植え替えた倒れた幹、残った根から蘖(ひこばえ)が生えているようです。

無事、鎌倉街道を歩く会に参加の全員の方が事故もなく、最終目的地に到着しました。

完全踏破された方は5名で、完歩おめでとうございます。